

森林レンジャーがゆく

「ハナドキニハミズ ハドキニハナミズ」

Vol.151

近年では、8月も暑さが続きますが、暦の上では8月7日に立秋。今回は、毎年ちょうどその頃から市内の所々で見られるキツネノカミソリを紹介します。

キツネノカミソリは、本州、四国、九州に分布する多年草でヒガンバナ科の仲間です。花が咲いているのに葉が無いのを不思議に思った方もいると思います。これは、葉が早春の木々が芽吹く前に出て、夏草が繁茂する頃に枯れているからで、

夏の強い日差しを避けた期間に太陽光を十分に浴びて養分を蓄え、花粉を運ぶ昆虫に花をよりアピールするためと考えられています。名前は、葉の形を日本剃刀に、黄赤色の花を狐火に見立てたなど諸説あります。狐火とは、日本各地で知られる怪火の一種で、正体はキツネが関係していると信じられています。蒸し暑い夏の夜や天気の変わり目に現れやすいと伝えられていますが、私は見たことがありません。キツネノカ

ミソリは、市民の皆さんにとってこの時季お馴染みの植物だと思いますが、実は東京都本土部では絶滅危惧Ⅱ類(絶滅の危険が増大している種)となっており、西多摩エリアでは準絶滅危惧種(生息条件の変化によっては絶滅危惧に移行する種)です。その要因として、森林伐採や土地造成、管理放棄などが挙げられます。市内には、山林内にある旧谷津田や人家跡にキツネノカミソリが見られる場所も残っていますが、自生

地の多くは葉時から花時まで人の手によって継続的に管理されている場所です。このお花に出会えたら、ぜひ周りの環境にも目を向けてみてください。(加瀬澤)



キツネノカミソリ